

<カマキリの秋>

桑原紀子

西緑地の草刈の時、カマキリの卵を見つけました。大きくてふっくらして、秋の光を集めたような、オオカマキリの卵のう。

なんとなく嬉しくて、草の茎ごと持っていたら、初参加の Y さんが「もらっていいですか?」。もちろん。

Yさんには、小さな可愛い女の子がいることを知っています。

昔、引き出しにしまい忘れていた卵のうから、翌春、湧き出るようにカマキリの赤ちゃんがぞろぞろ出てきて、びっくりしたのを思い出します。

多摩丘陵でよく見かけるカマキリは3種類、オオカマキリ、ハラビロカマキリ、ココマキリです。

すこし前、夏から秋にかけてはオオカマキリをよく見ました。庭やフェンスで、じっと動かずに獲物を待っているの、目の前で指を動かすと、三角の頭をゆっくり動かしてそれを追うのです。鎌を振り上げられる前にやめました。が…。

秋が深まると共に姿を見なくなり、10月になってからは、ハラビロカマキリとココマキリによく会います。

少しずつ時期をずらして暮らしているのでしょうか。

ある日近所を歩いていたら、どうしたことが、カマキリの轢死体があちこちにあるのです。

住宅地の道路に点々と残る、緑色の潰されたカマキリの姿は不思議な光景でした。

その側に、灰褐色のコカマキリがぼーとした風情で立っています。

(ここは危ないよ)、ココマキリをつかまえて移動させました。

ココマキリは名前の通りほっそりと小型で、体色は地味ですが、前脚の内側の黒白ピンクの3色の模様が素敵なのです。

カマキリが轢かれている話をしたら、友人たちが、家の近くでも轢かれていたと、口々に話しました。

毎年この時期にそんなに集中して交通事故にあっているのでしょうか。

集中していたのは4~5日間でした。しか

もほとんどが緑の前翅に白い斑紋、幅広の体が特徴のハラビロカマキリです。

道路に出てきたハラビロカマキリを捕まえて畑に放したら、また出てくるのです。おまけにハラビロカマキリは荒っぽくて、私は両鎌でしっかり痛い目にあいました。

かなり大人になるまで、私はカマキリが怖かったのです。今でも捕まえるのは及び腰です。でもカマキリがいることは、餌になる小さな昆虫たちも沢山いるという事。

少し遠くから畏敬の念を持ちつつ、いつまでも出会っていきたい存在です。

